

EU Indicators

発表日:2019年8月14日(水)

欧州経済指標コメント:4-6月期ユーロ圏GDP

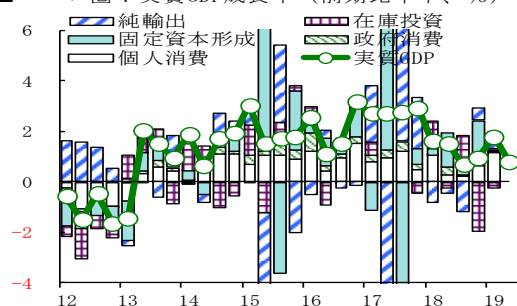
～ドイツがマイナス成長に転落～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

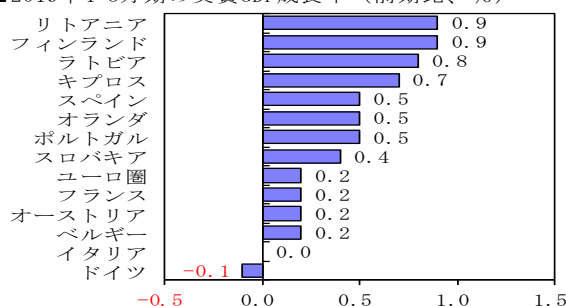
- 4-6月期のユーロ圏実質GDP成長率の二次速報値は前期比+0.2%、同年率+0.8%と、一時速報段階から不変。発表された国別内訳は、ユーロ圏に先駆けて同日公表されたドイツが同▲0.1%と、特殊要因で下振れした昨年7-9月期以来のマイナス成長に転落。既報のイタリアがゼロ成長と低迷し、輸出動向に左右されやすい2国がユーロ圏全体の足を引っ張った。ただ、フランスやスペインで個人消費の増勢が鈍化するなど、内需の景気下支えに陰りも出てきている。
- ユーロ圏全体の需要項目別内訳は9月6日に公表予定。ドイツ統計局によれば、同国では個人消費、政府消費、非建設投資が増加した一方、建設投資の落ち込みに加え、輸入を上回るペースで輸出が減少したことで外需が成長を下押し。建設投資の落ち込みは、好天候による1-3月期の反動減とみられる。生産や資本財受注が落ち込むなか、非建設投資の拡大には違和感もある。投資拡大が民間企業と公的部門のどちらに牽引されたのか、27日に発表される詳細を確認する必要がある。7-9月期入り後のドイツの景気指標は、製造部門を中心に一段の冷え込みが続いている。ドイツは2四半期連続マイナス成長（テクニカル・リセッション）となる可能性が出てきた。
- なお、今回の発表に合わせてドイツのGDP統計は基準年変更と年次改定が行われた。年間の成長率は2017年が+2.5%→+2.8%に上方修正、2018年が+1.5%→+1.5%で不変。四半期の成長率（前期比伸び率）は、2018年1-3月期が+0.4%→+0.1%、4-6月期が+0.5%→+0.4%に下方修正、7-9月期が▲0.2%→▲0.1%、10-12月期がゼロ%→+0.2%に上方修正された。

■ユーロ圏：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：Eurostat

■2019年4-6月期の実質GDP成長率（前期比、%）



出所：Eurostat

■ユーロ圏GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目 GDP	実質 GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本 投資	在庫	輸出	輸入		
17/7-9月期	3.7	2.8	(▲ 3.6)	2.3	1.8	▲ 17.9	(▲ 0.8)	6.3	4.9	▲ 8.2
17/10-12月期	4.0	2.9	(0.9)	0.9	0.9	3.1	(▲ 0.4)	2.0	9.6	5.7
18/1-3月期	2.9	1.6	(2.4)	2.0	0.1	1.1	(1.1)	▲ 0.8	▲ 1.9	▲ 0.3
18/4-6月期	3.3	1.5	(1.7)	0.6	1.6	6.7	(▲ 0.3)	▲ 0.2	4.6	5.5
18/7-9月期	2.2	0.7	(1.9)	0.5	0.2	1.7	(1.2)	▲ 1.2	1.1	3.9
18/10-12月期	2.3	1.0	(0.5)	1.3	2.5	6.2	(▲ 1.9)	0.5	4.7	4.1
19/1-3月期	3.5	1.8	(1.1)	2.2	0.4	0.2	(▲ 0.2)	0.7	2.7	1.4
19/4-6月期	—	0.8	—	—	—	—	—	—	—	—

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

